**令和５年度　第２回日野市自殺総合対策基本計画策定委員会　要点録**

|  |  |
| --- | --- |
| **日時** | 令和５年９月２８日　木曜日　18時半から20時半 |
| **場所** | 505会議室 |
| **参加者** | 元永委員長、田中委員、佐々木委員、山本委員、中野委員、丹野委員、岡田委員、杉山委員、尾山委員、長﨑委員、和田委員、山下委員、高橋委員、セーフティネットコールセンター、健康課 |
| **欠席者** | 杉本委員・鈴木委員・中田委員 |
| **次第** | １開会　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２　議題（１）事業に対する評価やご意見　まとめ　　　　　（２）骨子（案）について　①基本的方向性の考え方　　　　　　　　　　　　②方向性・施策項目・事業について　　　　　　　③自殺総合対策基本計画の構成案　　　　　　　　④骨子（案）についてのディスカッション３　その他　　 |
| **配布資料** | 資料１　事業に対する評価やご意見　まとめ資料２　基本的方向性の考え方資料３　方向性・施策項目・事業について資料４　自殺総合対策基本計画の構成案日野市自殺総合対策基本計画策定委員名簿座席表第１回日野市自殺総合対策基本計画策定委員会　要点録 |
| **主な内容** | ※開会の辞の前に、高塚副委員長の訃報をお知らせ。**１　開会の辞**第２回目の計画策定委員会となる。限られた時間ではあるが意見交換をお願いする。**２　前回欠席した委員からの挨拶**・杉山委員　・尾山委員　・高橋委員　・相馬委員よりあいさつあり**３　資料１の説明を事務局（健康課）より説明**各委員より出た意見や評価をお知らせした。この意見や評価は、今後各課に共有し、事業の検討に入る。その後、第３回目の策定委員会の際に修正した事業内容を提示。パブリックコメント実施後、次期計画に反映という流れで進めていく。時間の関係で、いくつかピックアップして、事業の内容や意見等を説明。**４　委員より意見あり*** 民生委員について、ゲートキーパー研修はやったことがない。積極的に参加していきたいと思っている。高齢者とお母さんたち世代とは関りがあるが、働き盛りの世代は関りがない。どのように対応していくか課題。
* 女性や子ども、中高生など自殺の問題が複雑になってきている。
* 経済的に支援するというだけでは難しくなってきている。教育委員会や学校などいろんな方との協力がますます必要になってくる。この自殺対策の委員会がいろんなところに働きかけて、市民の力など協力を得ながら取り組みをしていくことが必要。

**⑥資料２～４の説明を事務局より説明**資料２計画の柱となる方向性の部分を改定した案を提示。日野市の特性や市民に分かりやすいという部分に気を付けて骨子案を作成。国の大綱や都の動向にも着目して作成した。６つの方向性にした理由について資料を使い説明。国の大綱のポイントに載っている４つのポイントに２つ日野市の独自項目をプラスし６つとした。資料３現行の計画と新しい計画を別の表にして説明。現行の方向性が新計画のどの部分にあたるのかを一つずつ一緒にみていく。事業は、各課のからの目標などを含め詳細は次回提示。資料４基本計画の構成案について。現行の計画と新しい計画を横並びで資料を作成し、説明。第１章の１番で基本的理念を追加する。改めて意識しなおすということで、掲載する旨を説明。その他、少し文言等を削除し見やすいものにした。**⑦委員より意見あり*** 子どもに対する自殺対策について、厚生労働省が作成する大綱のポイントの最初に子ども・若者の対策があり期待をしている。日野市でも対策をしているが、もう少し個々の生徒に対する支援が必要ではないか。
* SNS相談や子供なんでも相談が始まるということだが、小中学校でタブレット等が配られているのでそちらを活用するなどはどうか。
* 表現方法について、統一した方がいいのではないか。
* 学校の現状や、普段感じている生徒について報告あり。典型的なポイントを分かりやすく入れていくと日野市独自のものになるのではないか。
* リストカットについて、以前は人に見せるためにやっているから大したことじゃないと言われていた。でも、今の医学教育の中でリストカットなどの行為は非常に危険であることが広く教育されており、救命救急医や若いレジデントはもともと知っているし、救命部にいる看護師さんや若い看護師もよく承知している。
* ただ、中堅からベテランで、救命などをやっていない普通の医者は知らないかもしれない。そのあたりにそういったことを広げていくことは非常に重要。
* リストカットしてしまう方について、家庭環境や生活歴が重要になってくる。子供たちが育っている環境を考えてあげないと、病気だから仕方ないということで片づけるのではなく、家族や、学校、お友達のことも考えてあげないといけない。興味本位でリストカットしてしまうという人もいるが、自分が痛みを感じることで解消していく。そういう傷のある方をみかけたら、辛いことがあってそういうことをしているかもしれないと気にかけてもらい、できれば医療機関に繋げていただきたい。
* 梅毒がかなり流行っている。望まない妊娠が合わせて起こっており、自分自身を大切にできないということが起きているのではないか。そういった状況があるということも検討してほしい。
* 3、9月は自殺対策の強化月間だと。それは、決算月にもあたる。人身事故がとても多いと感じている。自分の成績だったり苦労されているのではないか。子どもの自習室をやっているが、自分が小学校５、６年の時に比べると、SNSとかスマホなど、情報が非常に多い。いじめの問題、LINEとか誹謗中傷とか。大人もそう。すごく気にしながら学校に行ったり、そういうことを気にしながら毎日過ごしている子どもが多いと感じる。
* 事業者との連携の部分。社内で自殺というものを一般の社員に出していくというのは難しい部分でもある。ただ、一人もいないわけではない。労務の担当や人事の担当、医療職も含め共有できる場があったらいいなと感じる。
* 意見があったタブレットの活用について。現在そこから相談など入れるように調整中である。SOSの出し方に関する教育についても、小・中学校で毎年必ず１回は実施している。その中で、外部にお願いしているのは毎年数校ということで、それ以外は校内でしっかりやっている。特に、夏休み明けの自殺が多いので、学校はかなり注意深く見ている。
* 新規事業がいろいろ開始となる。子どもオンブズパーソン制度など今検討している最中。ヤングケアラーの問題についても、進めているところ。１０月にパブリックコメントも予定している。いろんなご意見をいただきたい。

**⑧その他**次回の委員会は11/27　㈪　18：30～101会議室にて開催。 |